

佐用日本語学校 学則

第1章 総則

(目的)

第1条 本校は、佐用日本語学校の学びの精神に基づき、日本語教育を通して地域社会と共生でき、日本の文化や社会を理解しながらも国際社会において貢献できる、多文化共生社会を担って立つ人材の育成を目指す。

2 本校は、地域社会と密接に関わりながら学習し生活する留学生が、地域の中で豊かな人間関係を築くのに必要なコミュニケーション力を身に着け、多文化共生社会の実現を担う人材となるよう育成することを目的とする。

(名称)

第2条 本校は、佐用日本語学校という。

(位置)

第3条 本校は、兵庫県佐用郡佐用町久崎50番地に置く。

(自己点検・評価)

第4条 本校は、教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検及び評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 課程、修業期間、収容定員及び休業日

(課程・修業期間・収容定員)

第5条 本校の課程、修業期間、収容定員及びクラス数は、次のとおりとする。

課程名	修業期間	収容定員	クラス数	備考
大学・専門学校進学 2年課程	2年	60名	3クラス	4月生
大学・専門学校進学 1年6か月課程	1年6か月	40名	2クラス	10月生
合計		100名	5クラス	

(始期・終期等)

第6条 本校の各課程は、4月および10月に始まり、3月に終わる。

2 前項の期間を分けて、次の学期とする。

- (1) 第1学期 4月～6月
- (2) 第2学期 7月～9月
- (3) 第3学期 10月～12月
- (4) 第4学期 1月～3月

(休業日)

第7条 本校の休業日は、次のとおりとする。

- 一 土曜日
- 二 日曜日
- 三 国民の祝日に関する法律で規定する休日
- 四 春季休業（3月下旬から4月上旬までの2週間）
- 五 夏季休業（8月上旬から8月下旬までの3週間）
- 六 冬季休業（12月下旬から1月上旬までの2週間）

2 教育上必要があり、やむを得ない事情があると校長が認めるときは、前項の規定にかかわらず休業日に授業を行うことができる。

3 非常災害その他急迫の事情があると校長が認めるときは、臨時に授業を行わないことができる。

(授業の終始時刻)

第8条 授業の終始時刻は、次の表のとおりとする。

午前 の 部	8:30～ 9:15	午後 の 部	12:30～13:15
	9:25～10:10		13:25～14:10
	10:20～11:05		14:20～15:05
	11:15～12:00		15:15～16:00

第3章 教育課程、授業時数、学習の評価及び教職員組織

(教育課程)

第9条 本校の各課程別の教育課程及び授業時数は、次のとおりとする。ただし、ここにいる授業時数の1単位時間は、45分とする。

(1) 大学・専門学校進学2年課程

授業科目	到達目標	週当たり 授業時数等
初級Ⅰ (A1)	教室や日常生活など身近な場面で、簡単な日本語を聞いたり読んだりし、基本的な情報を理解することができる。自分自身や身近な事柄について、簡単な表現を用いて質問・応答、発表、記述をすることができる。 地域で安全に生活するための基本的ルールを理解し、指示に従って行動することができる。	週20単位 時間 計192単位 時間
初級Ⅱ (A2)	日常生活や学校生活など身近な場面で、簡単な日本語を聞いたり読んだりし、主要な内容や必要な情報を理解することができる。身近な話題について必要な情報を交換したり、自分の希望や意見を伝えたりしながら経験を整理し、まとまりのある発表や文章で表現することができる。	週20単位 時間 計384単位 時間

中級 (B1)	日常生活、学習、社会生活など身近な社会的話題について、説明や会話、文章から要点や必要な情報を把握することができる。自分の意見や考えを理由や具体例とともに表現し、相手と意見や情報を交換しながら、目的や聞き手を意識してまとまりのある発表や文章を作ることができる。	週 20 単位 時間 計 384 単位 時間
中上級 (B2)	社会、文化、学習などの具体的・抽象的な話題について、やや複雑な話し言葉や文章から、主要な内容、論旨、情報の関係、話し手・書き手の意図などを把握することができる。複数の情報や意見を整理・比較した上で、自分の立場や考えを明確に示し、理由や根拠を示しながら、相手や目的に応じて、比較的流暢かつ論理的に意見交換、発表、記述をすることができる。	週 20 単位 時間 計 576 単位 時間

(2) 大学・専門学校進学1年6か月課程

授業科目	到達目標	週当たり 授業時数等
初級Ⅱ (A2)	日常生活や学校生活など身近な場面で、簡単な日本語を聞いたり読んだりし、主要な内容や必要な情報を理解することができる。身近な話題について必要な情報を交換したり、自分の希望や意見を伝えたりしながら経験を整理し、まとまりのある発表や文章で表現することができる。	週 20 単位 時間 計 192 単位 時間
中級 (B1)	日常生活、学習、社会生活など身近な社会的話題について、説明や会話、文章から要点や必要な情報を把握することができる。自分の意見や考えを理由や具体例とともに表現し、相手と意見や情報を交換しながら、目的や聞き手を意識してまとまりのある発表や文章を作ることができる。	週 20 単位 時間 計 384 単位 時間
中上級 (B2)	社会、文化、学習などの具体的・抽象的な話題について、やや複雑な話し言葉や文章から、主要な内容、論旨、情報の関係、話し手・書き手の意図などを把握することができる。複数の情報や意見を整理・比較した上で、自分の立場や考えを明確に示し、理由や根拠を示しながら、相手や目的に応じて、比較的流暢かつ論理的に意見交換、発表、記述をすることができる。	週 20 単位 時間 計 576 単位 時間

(学習の評価)

第10条 学習の評価は、試験の成績、出席状況、学習への取り組み等を総合的に判断し、各科目における形成的評価の平均点、総括的評価の平均点を100点換算して、A（100点～85点）B（84点～70点）C（69点～55点）D（54点以下）の4段階評価とする。

(教職員組織)

第11条 本校に次の教職員を置く。

- 一 校長
 - 二 副校長
 - 三 主任教員（専任教員の中から選任）
 - 四 教員 5 人以上（本務等教員 3 人以上）
 - 五 生活指導担当者 1 人以上（教員又は事務職員の中から選任）
 - 六 事務職員 1 人以上（うち 1 人は事務を統括する職員）
-
- 2 前項のほか、必要に応じて職員を置くことができる。
 - 3 校長は校務をつかさどり、所属職員を監督する。
 - 4 校長は、各学期に最低 1 回以上、教職員全体による会議を設け、学習及び生活状況等を検討する。
 - 5 副校長は校長を補佐し、校長に事故ある時は校務を代理する。
 - 6 主任教員は教務の責任者として全課程を統括する。

第 4 章 入学、休学、退学、転学、卒業及び賞罰

（入学資格）

第 12 条 本校への入学資格は、次の各号のいずれにも該当する者とする。

- 一 12 年以上の学校教育又はこれに準ずる課程を修了している者
 - 二 年齢が 18 歳以上の者
 - 三 正当な手続により日本国への入国を許可され、又は許可される見込みのある者
 - 四 信頼のおける保証人を有する者
 - 五 大学・専門学校進学 2 年課程については、日本語を 150 時間以上履修し、日本語教育の参照枠における A1（日本語能力 N5 程度以上）以上の日本語能力を有する者
 - 六 大学・専門学校進学 1 年 6 か月課程については日本語を 300 時間以上履修し、日本語教育の参照枠における A2（日本語能力 N4 程度以上）以上の日本語能力を有する者
 - 七 過去に日本で不法滞在歴・犯罪歴（親戚を含む）を有しない者
- 2 在留資格に問題がない者については、前項の規定にかかわらず、校長は入学を許可することができる。

（入学時期）

第 13 条 本校への入学時期は、毎年 4 月及び 10 月の年 2 回とする。

（入学手続）

第 14 条 本校への入学手続は、次のとおりとする。

- 一 本校に入学を志願する者は、本校所定の入学願書その他必要書類に必要事項を記載し、第 21 条に定める選考料を添えて、指定期日までに出席しなければならない。
- 二 前号の手続を完了した者に対して選考を行い、入学者を決定する。
- 三 入学を許可された者は、指定期日までに第 21 条に定める入学金を納付し、必要書類を提出して入学手続を完了しなければならない。
- 四 所定の期間までに手続きを行わない者は入学を認めない。

(休学及び復学)

第15条 学生が疾病その他やむを得ない事由により10日以上休学しようとするときは、その事由及び期間を記載した休学願に診断書その他必要書類を添えて申請し、校長の許可を受けなければならない。

2 休学した者が復学しようとするときは、その旨を校長に届け出て、許可を受けなければならない。

3 校長は、疾病その他の理由により修学が適当でないと認められる学生に対し、休学を命ずることができる。

4 休学中の学生は、その期間中、授業及び試験を受けることができない。

5 休学期間を延長する必要がある場合は、当初許可された期間の終了前日までに届け出て、校長の許可を受けなければならない。

(公欠)

第16条 本校の学生が、次に該当する事由により授業に出席できない場合、所定の手続きを行なうことにより、校長の判断によって、授業を欠席したものとして取り扱わないことができる。

一 災害等により通学が著しく困難であると認められる場合

二 学生が本校の代表として、学校が特別に認める行事、大会等に参加する場合

三 進学のための受験の日は、試験当日の該当機関（移動時間も含む）に限り公欠とする

四 その他、校長が必要と認める場合

(退学及び転学)

第17条 退学又は転学を希望する者は、その事由を記載した退学届又は転学届を提出し、校長の許可を受けなければならない。

2 転学は、災害その他緊急時を除き、原則として認めない。

3 転入学は、本校の定める入学資格を有する者で、かつ欠員がある場合に限り、選考の上、校長が許可することがある。

(修了及び卒業の認定)

第18条 校長は、教育課程に定める各授業科目について第10条の評価を行い、所定の基準を満たした者に対し、当該科目の修了を認定する。

2 所定の日本語教育課程の受講期間を満たし、総授業時数の出席割合が80%以上であり、かつ最終成績評価が原則として全科目C以上の者に対して修了を認める。

3 校長は、本校所定の課程を修了した者に対して卒業証書を授与する。

4 教育上特に必要があると認める場合、校長は補充課題及び補充評価を行うことができる。
対象者、方法、時期その他必要な事項は、別に定める。

(褒賞)

第19条 校長は、成績優秀かつ他の学生の模範となる者に対し、褒賞を与えることができる。

(懲戒処分)

第20条 学生が本学則その他本校の定める諸規程に違反し、学生としての本分に反する行為をしたときは、校長は懲戒処分を行うことができる。

2 懲戒処分の種類は、訓告、停学、退学及び除籍の4種とする。

3 除籍は、次の各号のいずれかに該当する場合に限り行う。

一 素行不良で改善の見込みがないと認められる者

二 学力劣等で修学継続の見込みがないと認められる者

三 正当な理由なく出席が著しく不良な者

四 学校の秩序を乱し、学生としての本分に著しく反した者

第5章 学生納付金

(学生納付金)

第21条 本校の学生納付金は、別表に定めるとおりとする。

		選考料	入学金	授業料	その他 納付金	計
大学・専門学校進 学2年課程	1年目	30,000円	80,000円	640,000円	64,000円	814,000円
	2年目			640,000円	64,000円	704,000円
大学・専門学校進 学1年6か月課程	1年目	30,000円	80,000円	640,000円	64,000円	814,000円
	2年目			320,000円	39,500円	359,500円

(納入)

第22条 学生は、本校在籍中、出席の有無にかかわらず、所定の期日までに授業料を納入しなければならない。

2 授業料は申請学期の初日から計算し、自己都合により入学が遅れた場合でも授業料の振替又は免除は行わない。

3 休学中の授業料についても同様とする。

(滞納)

第23条 学生が正当な理由なく授業料を1学期以上滞納し、かつ納入の見込みがないと認められるときは、校長は除籍処分とすることができる。

(学生納付金の返還)

第24条 既納の学生納付金は、原則として返還しない。

2 ただし、別に定める規程に基づき、やむを得ない事情がある場合は、納付金の一部を返還することがある。

3 返還手続及び必要書類については別に定める。既に納入した学生納付金は、原則として返還しない。

第6章 雑 則

(学生証)

第25条 入本校は、入学時に学生証を発行する。学生証は在学中、身分を証明するものであり、常に携帯しなければならない。

(寄宿舍)

第26条 寄宿舍に関する事項は、別に定める。

(健康診断)

第27条 本校に入学する学生は、入学時に母国における健康診断書を提出しなければならない。

2 在学中は、年1回健康診断を実施する。

(安全管理)

第28条 本校は、学生及び教職員の安全確保のため、安全管理体制を整備し、災害・事故等への対応手順を定める。

(ハラスメントの防止)

第29条 本校は、あらゆるハラスメントを防止し、相談及び救済の体制を整備する。

(細則)

第30条 本学則の施行に関し必要な細則は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この学則は、平成30年10月1日から施行する。
- 2 この学則の改正は、令和4年10月1日から施行する。
- 3 この学則の改正は、令和9年4月1日から施行する。

学生納付金返還規程

(目的)

第1条 本規程は、佐用日本語学校学則第24条に基づき、学生納付金の返還に関する必要事項を定めることを目的とする。

(返還の原則)

第2条 既に納入した学生納付金は、原則として返還しない。ただし、次条に定める場合はこの限りではない。

(返還対象)

第3条 次の各号のいずれかに該当する場合は、所定の手続により納付金の一部を返還することができる。

- 1 入学者選考において不合格となった場合（選考料は返還しない）
- 2 在留資格認定証明書交付後、入学しなかった場合（選考料及び入学金を除く）
- 3 入国査証が発給されなかった場合（選考料及び入学金を除く）
- 4 査証取得後、来日前に入学を辞退した場合（選考料及び入学金を除く）
- 5 入学後に帰国のため中途退学した場合（以下第4条基準による）

(返還する納付金)

第4条 以下の場合、学生納付金の一部を返還することができる。

- (1) 入学者選考において不合格の場合：選考料は返還しない。
- (2) 在留資格認定証明書が交付され、入学許可証を交付したにも関わらず、入学しなかった場合：選考料、入学金以外の納付金を返還する。
但し、在留資格認定証明書と入学許可証の返却を条件とする。
- (3) 在外日本大使館・領事館にて入国査証が発給されなかった場合：選考料、入学金以外の納付金を返還する。
但し、入学許可証の返却と在外日本大使館・領事館において入国査証が発給されなかった事の確認を条件とする。
- (4) 入国査証を取得したが、来日以前に入学をキャンセルした場合：選考料、入学金以外の納付金を返還する。
但し、入学許可証の返却と入国査証の失効確認を条件とする。
- (5) 授業料を納付し入学後、1年目で中途退学する場合：選考料、入学金は返還しない。
授業料も原則として返還しない。
但し学生が帰国する場合、一部の授業料を以下の通り返還する。
入学後1か月以内に退学し帰国する学生：9か月分の授業料のみ返還する。
入学後2か月～3か月以内に退学し帰国する学生：6か月分の授業料のみ返還する。
入学後4か月～6か月以内に退学し帰国する学生：3か月分の授業料のみ返還する。
入学後7か月～9か月以内に退学し帰国する学生：授業料の返還はしない。
- (6) 2年目で中途退学する場合：学生が既に納めた授業料のうち、退学日の翌月分からの授業料のみ返還する。
- (7) 授業開始日より来日が遅れた場合：受講できなかった期間の授業料は返還しない。

2 前項の手続きをする場合には、次の必要書類のうち、必要とされるものを本学に提出又は提示するものとする。

- (1) 納付金の領収書
- (2) 事情説明書
- (3) 未使用の「在留資格認定証明書」(現地大使館等にてビザ不交付の場合を除く)
- (4) パスポートの写し
- (5) その他本校が必要と判断し、提出または提示を求めたもの

(返還手続)

第5条 返還を希望する者は、所定の申請書及び学校が指定する書類を提出しなければならない。必要書類がそろっていない場合や事情説明書の内容が十分でない場合には、納付金を返還できないこともある。

(返還の決定)

第6条 返還の可否及び金額は、校長が審査の上決定する。

ハラスメント防止規程

(目的)

第1条 本規程は、学習及び就労環境におけるハラスメントの防止及び対応を定める。

(禁止事項)

第2条 セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、差別的言動その他の人権侵害行為を禁止する。

(相談体制)

第3条 本校は、ハラスメントに関する相談窓口を設置する。

(対応措置)

第4条 相談を受けた場合、事実確認を行い、必要な措置を講ずる。

安全管理規程

(目的)

第1条 本規程は、学生及び教職員の安全確保を目的とする。

(安全管理体制)

第2条 本校は、防災・防犯体制を整備する。

(緊急時対応)

第3条 災害・事故発生時の対応手順を定め、学生及び教職員へ周知する。

(訓練)

第4条 本校は、定期的に避難訓練等を実施する。

佐用日本語学校 寮則

2026 年 4 学期より適用

第 1 章 総則

本規則は、佐用日本語学校の寮において、秩序ある共同生活を維持するために必要な規則を定め、これを入寮者が守り、快適な寮生活を営んでいくことを目的とする。本建物は寮として賃貸利用しているので、決められた下の規律をよく守ること。

第 2 章 施設の管理

第 1 条 寮内に備えられた施設や電子製品は、外部に移動不可であり、毀損した場合これを弁償しなければならない。

第 2 条 入室者の不注意により、寮内のドア・階段・壁・窓・カーテンなどを破損した場合は、相当する損害賠償を請求する。

第 3 条 トイレ、流し台などの配管の問題は、入室後から入室者の責任で修理をする。

第 4 条 個人所有の物品は、本人の責任の下に保管管理しなければならない。紛失毀損時には寮では一切の責任を負わない。

第 5 条 部屋は各自責任をもって清潔に掃除すること。また、台所やトイレ、洗濯機などの共用部分も各階で責任をもって清掃・管理すること。

第 6 条 学校側から各部屋に支給される鍵の管理責任は個人にある。鍵の紛失/交換に伴う費用は実費を個人が負担する。

第 3 章 部屋利用について

第 1 条 寮の部屋割り当ては佐用日本語学校の全権による。入室者は割り当てられた部屋を任意に変更することはできない。

第 2 条 部外者の宿泊は禁止する。例外的に、家族など近親者が宿泊をする場合、学校に事前の届出をしなければならない。また、外泊をする場合も学校に事前の届け出をしなければならない。

第 3 条 異性の居住者がいる寮への入室を固く禁止する。

第 4 章 秩序維持 寮内秩序維持のために、以下の事項を遵守すること。

第 1 条 寮では静粛に生活すること。特に、夜 9 時以降は窓を閉め、話し声、テレビ等の音、洗濯機の騒音などを出さないようくれぐれも注意すること。
(日本人は騒音問題を警察に申告することが多いため特に注意すること。)

第 2 条 寮内に危険物を持ち込むことを禁止する。

第 3 条 寮内での落書きや不法広告物の流入配布を禁止する。

- 第4条 寮内でギャンブル、暴行、窃盗などの犯罪が発覚した場合、厳罰に処す。
- 第5条 施設の任意の移動、変形、損傷、毀損を禁止する。
- 第6条 居住している他の寮生に支障を与える行為を禁止する。
- 第7条 自転車は決められた場所に停めること。
- 第8条 寮内での喫煙を禁止する。外部での喫煙時、吸い殻は指定された場所に捨てること。室内にたばこの灰を持ち込んだ場合、室内喫煙とみなす。建物の周りや屋根、他人の所有地に絶対に吸い殻を捨てないこと。
- 第9条 ゴミは必ず指定の方法で分別し、指定された場所・時間に捨てること。
- 第10条 各寮に請求される光熱費（電気、ガス、水道代）は、寮生が責任を持って期日までに支払うこと。
- 第11条 寮が属する自治会の規則をよく守り、挨拶を心がけ、行事に参加するなど近隣の住民との関係向上につとめること。

第5章 寮費

- 第1条 寮費は必ず月末までに学校の事務室に納入すること。

第6章 罰則

- 第1条 本寮則に違反した学生、学校の指導指示に従わない学生は停学とする。
- 第2条 停学3回をもって退学とし、強制的に退寮を命ずる。
- 第3条 強制退寮の場合、退寮勧告を受けてから1週間以内に退寮すること。その場合、寮費の返還はしない。
- 第4条 ギャンブル、暴行、窃盗、器物破損、風紀紊乱、大声で騒ぐ行為、デマの流布などの行為、寮の指示不履行、家賃延滞などの規定違反行為は、退学に伴う強制退寮の対象となる。

第7章 不可抗力的な中途退室事項

- 第1条 以下の場合には不可抗力的な中途退室事項であり、例外的に中途退室を認める。
直系の家族の死亡と緊急事項に起因する緊急帰国の場合、健康上の問題に起因する帰国の場合、その他緊急で帰国しなければならない事項による帰国の場合

第8章 卒業等に伴う退室規定

- 第1条 退室日は必ず佐用日本語学校に報告すること。退室日は月末まで。
- 第2条 退室時は鍵の返却と荷物の搬出、光熱費の精算を行い、職員の立ち合い検査を受けること。
- 第3条 退室時の基本的な清掃：床、窓枠の掃除/浴槽、トイレ、流し台の周辺の掃除やカビ除去、冷蔵庫の電源を抜いた後冷凍庫の氷除去と清掃、寝具類の処理、ゴミの処理

Sayo Japanese Language School Dormitory Rules

Effective from the April 2026 Term

Chapter 1: General Rules

These rules are established to ensure a comfortable and orderly shared living environment in the dormitory of Sayo Japanese Language School. All residents must follow these rules. Please remember that this building is rented for use as a dormitory, so it is important to follow the regulations listed below.

Chapter 2: Facility Management

1. All facilities and electronic appliances provided in the dormitory must not be moved outside. If any item is damaged, the resident must pay for the repair cost.
2. If a resident damages doors, stairs, walls, windows, curtains, or other parts of the dormitory due to carelessness, the school will charge the appropriate repair cost.
3. Any plumbing issues (toilets, sinks, etc.) that occur after moving in must be repaired at the resident's own expense.
4. Personal belongings must be stored and managed at the resident's own responsibility. The school is not responsible for any loss or damage.
5. Residents must keep their rooms clean. Shared areas such as kitchens, toilets, and washing machines must also be cleaned and maintained by residents on each floor.
6. Residents are responsible for managing the room key provided by the school. If the key is lost or needs to be replaced, the resident must pay the actual cost.

Chapter 3: Use of Rooms

1. Room assignments are decided entirely by Sayo Japanese Language School. Residents may not change rooms on their own.
2. Overnight stays by non-residents are prohibited. Exceptionally, close family members may stay overnight only if the school is notified in advance. Residents must also notify the school in advance when staying overnight outside the dormitory.
3. Entering a dormitory where residents of the opposite sex live is strictly prohibited.

Chapter 4: Rules for Living Together

To maintain order in the dormitory, residents must follow the rules below.

1. Residents must keep noise to a minimum. After 9:00 p.m., close windows and avoid loud talking, TV noise, washing machine noise, and other sounds. *(Please be especially careful, as noise complaints are often reported to the police in Japan.)*
2. Bringing dangerous items into the dormitory is prohibited.
3. Graffiti and distributing illegal advertisements inside the dormitory are prohibited.
4. Gambling, violence, theft, and other criminal acts will result in strict punishment.
5. Moving, altering, or damaging dormitory facilities without permission is prohibited.
6. Any behavior that disturbs other residents is prohibited.
7. Bicycles must be parked only in designated areas.
8. Smoking inside the dormitory is prohibited. When smoking outside, cigarette butts must be disposed of only in designated places. Bringing cigarette ash into the room will be considered indoor smoking. Never throw cigarette butts around the building, on the roof, or on someone else's property.
9. Garbage must be sorted according to local rules and disposed of at the designated place and time.
10. Residents must pay utility fees (electricity, gas, water) by the deadline.
11. Residents must follow the rules of the local community association, greet neighbors, and participate in events to maintain good relationships with the community.

Chapter 5: Dormitory Fees

1. Dormitory fees must be paid at the school office by the end of each month.

Chapter 6: Penalties

1. Students who violate these rules or do not follow school instructions will be suspended.
2. Three suspensions will result in expulsion from the school and forced removal from the dormitory.
3. In cases of forced removal, residents must leave the dormitory within one week after receiving the notice. Dormitory fees will not be refunded.
4. Acts such as gambling, violence, theft, property damage, disturbing public morals, loud noise, spreading false rumors, ignoring dormitory instructions, or delaying rent payments may result in expulsion and forced removal.

Chapter 7: Mid-term Withdrawal Due to Unavoidable Circumstances

1. Mid-term withdrawal is allowed only in unavoidable cases such as:

- Emergency return home due to the death or serious situation of an immediate family member
- Return home due to health problems
- Other urgent situations requiring immediate return home

Chapter 8: Moving Out Due to Graduation

- 1.** Residents must report their move-out date to Sayo Japanese Language School. Move-out must be completed by the end of the month of contract expiration.
- 2.** When moving out, residents must return the key, remove all belongings, settle utility fees, and undergo a room inspection with a staff member.
- 3.** Required cleaning when moving out includes:
 - Cleaning floors and window frames
 - Cleaning the bathtub, toilet, and sink area, and removing mold
 - Unplugging the refrigerator, removing ice from the freezer, and cleaning inside
 - Disposing of bedding and all garbage

साथो जापानी भाषा विद्यालय छात्रावास नियमावली

(२०२६ अप्रिल सत्रदेखि लागू)

अध्याय १: सामान्य नियमहरू

यी नियमहरू साथो जापानी भाषा विद्यालयको छात्रावासमा सुरक्षित, शान्त र व्यवस्थित सामूहिक जीवन सुनिश्चित गर्न बनाइएका हुन्।

सबै बसोबासकर्ताले यी नियमहरू अनिवार्य रूपमा पालना गर्नुपर्छ।

यो भवन छात्रावासको रूपमा भाडामा लिइएको भएकाले, नियम उल्लङ्घन गर्दा गम्भीर समस्या हुन सक्छ।

अध्याय २: सुविधा व्यवस्थापन

- छात्रावासमा उपलब्ध गराइएका सबै सुविधा तथा विद्युतीय उपकरणहरू (जस्तै: टिभी, फ्रिज, एअर कन्डिसनर आदि) बाहिर लैजान पाइँदैन।
कुनै वस्तु क्षतिग्रस्त भएमा, मर्मत खर्च बसोबासकर्ताले तिर्नुपर्छ।
- बसोबासकर्ताको लापरवाहीका कारण ढोका, भन्दा, भित्ताहरू, झ्याल, पर्दा वा अन्य भागहरू क्षति भएमा, सम्बन्धित मर्मत खर्च बसोबासकर्ताबाट असुल गरिनेछ।
- बसोबास सुरु गरेपछि देखिने पाइपलाइन सम्बन्धी समस्या (जस्तै: ट्वाइलेट, सिंक, पानी चुहावट आदि) बसोबासकर्ताले आफ्नै खर्चमा मर्मत गर्नुपर्छ।
- व्यक्तिगत सामान (जस्तै: नगद, मोबाइल, ल्यापटप आदि) बसोबासकर्ताले आफ्नै जिम्मेवारीमा राख्नुपर्छ।
हराएमा वा क्षति भएमा विद्यालय जिम्मेवार हुने छैन।
- बसोबासकर्ताले आफ्नो कोठा दैनिक रूपमा सफा राख्नुपर्छ।
भान्सा, ट्वाइलेट, वाशिङ मेसिन जस्ता साझा स्थानहरू पनि प्रत्येक तल्लाका बसोबासकर्ताले पालैपालो सफा र व्यवस्थापन गर्नुपर्छ।
- विद्यालयले उपलब्ध गराएको कोठाको चाबीको व्यवस्थापन बसोबासकर्ताको जिम्मेवारी हो।
चाबी हराएमा वा बदल्नुपरेमा वास्तविक खर्च बसोबासकर्ताले तिर्नुपर्छ।

अध्याय ३: कोठा प्रयोग

- कोठा तोकने अधिकार पूर्ण रूपमा साथो जापानी भाषा विद्यालयसँग हुन्छ।
बसोबासकर्ताले आफ्नै निर्णयले कोठा परिवर्तन गर्न पाइँदैन।
- बाहिरी व्यक्तिको रात बसाइ कडाइका साथ निषेध छ।
अपवादका रूपमा, नजिकका परिवार सदस्यले मात्र विद्यालयलाई अग्रिम जानकारी दिएपछि बस्न सक्छन्।

बसोबासकर्ताले छात्रावास बाहिर रात बस्नुपरेमा पनि
विद्यालयलाई अनिवार्य रूपमा अग्रिम जानकारी दिनुपर्छ।

3. विपरीत लिङ्गका बसोबासकर्ताहरू रहेको छात्रावास क्षेत्रमा प्रवेश कडाइका साथ निषेध छ।

अध्याय ४: सामूहिक जीवनका नियमहरू

छात्रावासमा अनुशासन कायम राख्नका लागि तलका नियमहरू अनिवार्य रूपमा पालना गर्नुपर्छ।

1. आवाज सानो राख्नुपर्छ।
विशेष गरी राति ९ बजेपछि झ्याल बन्द गर्नुपर्छ।
ठूलो स्वरमा कुरा गर्न, टिभी ठूलो आवाजमा चलाउन,
वा वाशिङ मेसिन प्रयोग गर्न नहुनेछ।
(छिमेकीहरूले प्रहरीमा उजुरी गर्न सक्छन्, त्यसैले विशेष ध्यान दिनुहोस्।)
2. खतरनाक वस्तुहरू (जस्तै: ज्वलनशील पदार्थ, हतियार आदि) छात्रावासमा ल्याउन निषेध छ।
3. छात्रावासभित्र भित्तामा लेख्ने (ग्राफिटी) वा अवैध विज्ञापन टाँस्ने तथा वितरण गर्ने कार्य निषेध छ।
4. जुवा, हिंसा, चोरी तथा अन्य आपराधिक कार्यहरू
गम्भीर अपराध मानिनेछ र कडा कारबाही गरिनेछ।
5. छात्रावासका सुविधा तथा उपकरणहरू
अनुमति बिना सार्न, परिवर्तन गर्न वा क्षति पुऱ्याउन पाइँदैन।
6. अन्य बसोबासकर्तालाई असुविधा हुने कुनै पनि व्यवहार (जस्तै: ठूलो आवाज, दुर्गन्ध, झगडा आदि) निषेध छ।
7. साइकल तोकिएको स्थानमा मात्र राख्नुपर्छ।
8. छात्रावासभित्र धूम्रपान पूर्ण रूपमा निषेध छ।
बाहिर धूम्रपान गर्दा सिगरेटका ढुक्राहरू (बट्टा)
तोकिएको स्थानमा मात्र फाल्नुपर्छ।
कोठाभित्र खरानी ल्याएमा पनि भित्र धूम्रपान गरेको मानिनेछ।
भवन वरिपरि, छतमा वा अरूको जग्गामा फाल्न कडाइका साथ निषेध छ।
9. फोहोर अनिवार्य रूपमा छुट्याएर
(जस्तै: जल्ने, नजल्ने, प्लास्टिक आदि)
तोकिएको स्थान र समयमा मात्र फाल्नुपर्छ।
10. बिजुली, ग्यास, पानी आदि युटिलिटी शुल्क
तोकिएको म्यादभित्र अनिवार्य रूपमा तिर्नुपर्छ।
11. स्थानीय समुदायका नियमहरू पालना गर्नुपर्छ।
छिमेकीलाई अभिवादन गर्नुपर्छ,
र सम्भव भएसम्म स्थानीय गतिविधिमा सहभागी भई
राम्रो सम्बन्ध कायम गर्नुपर्छ।

अध्याय ५: छात्रावास शुल्क

1. छात्रावास शुल्क प्रत्येक महिनाको अन्त्यसम्म विद्यालयको कार्यालयमा अनिवार्य रूपमा तिर्नुपर्छ।

अध्याय ६: दण्ड

1. यी नियमहरू उल्लङ्घन गर्ने वा विद्यालयका निर्देशन नमान्ने विद्यार्थीलाई निलम्बन गरिनेछ।
2. तीन पटक निलम्बन भएमा विद्यालयबाट निष्कासन तथा छात्रावासबाट जबरजस्ती निष्कासन गरिनेछ।
3. जबरजस्ती निष्कासनको अवस्थामा, सूचना प्राप्त भएको मितिबाट १ हप्ताभित्र छात्रावास छोड्नुपर्छ। यस अवस्थामा छात्रावास शुल्क फिर्ता गरिने छैन।
4. तलका कार्यहरू गम्भीर उल्लङ्घन मानिनेछन् र निष्कासन तथा जबरजस्ती निष्कासनको कारण बन्न सक्छन्:
 - जुवा
 - हिंसा
 - चोरी
 - सम्पत्ति क्षति
 - सार्वजनिक नैतिकता भंग गर्ने व्यवहार
 - ठूलो आवाजमा हल्ला गर्ने
 - झुटा अफवाह फैलाउने
 - छात्रावासका निर्देशन नमान्ने
 - भाडा वा शुल्क ढिला तिर्ने

अध्याय ७: अपरिहार्य कारणले बीचमै छात्रावास छोड्ने अवस्था

1. तलका अवस्थामा मात्र बीचमै छात्रावास छोड्न अनुमति दिइन्छ:
 - नजिकका परिवार सदस्यको मृत्यु वा गम्भीर अवस्थाका कारण आपतकालीन स्वदेश फिर्ता
 - स्वास्थ्य समस्याका कारण स्वदेश फिर्ता
 - अन्य अत्यावश्यक कारणले तुरुन्त स्वदेश फर्किनुपर्ने अवस्था

अध्याय ८: स्नातक वा सम्झौता समाप्तिका कारण छात्रावास छोड्ने नियम

1. छात्रावास छोड्ने मिति विद्यालयलाई अनिवार्य रूपमा जानकारी दिनुपर्छ। सम्झौता अवधिको अन्तिम महिनाको अन्त्यसम्म कोठा खाली गर्नुपर्छ।
2. छात्रावास छोड्दा:

- कोठाको चाबी फिर्ता गर्नुपर्छ
- सबै व्यक्तिगत सामान हटाउनुपर्छ
- युटिलिटी शुल्कको अन्तिम हिसाब मिलाउनुपर्छ
- कर्मचारीसँग कोठा निरीक्षण गराउनुपर्छ

3. छात्रावास छोड्दा अनिवार्य सरसफाइ:

- भुइँ र झ्यालको फ्रेम सफा गर्ने
- बाथटब, ट्वाइलेट, सिंक वरिपरि सफा गर्ने र फफूँदी हटाउने
- फ्रिजको प्लग निकालेर फ्रीजरको बरफ हटाई सफा गर्ने
- ओछ्यानका सामान तथा सबै फोहोर फाल्ने

ဆာယို ဂျပန်ဘာသာကျောင်း အဆောင်စည်းကမ်း

(၂၀၂၆ ခုနှစ် ဧပြီလမှ စတင်အသုံးပြု)

အခန်း ၁ : အထွေထွေ

ဤစည်းကမ်းများသည် ဆာယို ဂျပန်ဘာသာကျောင်း အဆောင်တွင်
လုံခြုံ၊ တည်ငြိမ်ပြီး စနစ်တကျ အတူနေထိုင်နိုင်ရန် ပြုလုပ်ထားသည်။
အဆောင်နေသူအားလုံး ဤစည်းကမ်းများကို မဖြစ်မနေ လိုက်နာရမည်။
ဤအဆောက်အဦသည် အဆောင်အဖြစ် ငှားရမ်းအသုံးပြုထားသောကြောင့်
စည်းကမ်းမလိုက်နာပါက ပြင်းထန်သော ပြဿနာများ ဖြစ်ပေါ်နိုင်သည်။

အခန်း ၂ : ပစ္စည်းနှင့်

- အဆောင်တွင် ပေးထားသော ပစ္စည်းများနှင့် လျှပ်စစ်ပစ္စည်းများ
(ဥပမာ - တီဗီ၊ ရေခဲသေတ္တာ၊ အေးယားကွန်) ကို
အပြင်သို့ မယူရ။
ပျက်စီးပါက ပြုပြင်ခကို ကိုယ်တိုင် ပေးရမည်။
- မတော်တဆကြောင့်
တံခါး၊ လှေကား၊ နံရံ၊ ပြတင်းပေါက်၊ ကာတိန် စသည် ပျက်စီးပါက
ပြုပြင်ခကို ကိုယ်တိုင် ပေးရမည်။
- ဝင်ပြီးနောက် ဖြစ်ပေါ်သော
ရေအိမ်၊ လက်ဆေးကန်၊ ရေပိုက် ပြဿနာများကို
ကိုယ်တိုင် ကုန်ကျစရိတ်ဖြင့် ပြင်ဆင်ရမည်။
- ကိုယ်ပိုင်ပစ္စည်းများ (ငွေ၊ ဖုန်း၊ ကွန်ပျူတာ) ကို
ကိုယ်တိုင် ထိန်းသိမ်းရမည်။
ပျောက်ဆုံးပါက ကျောင်းတာဝန်မယူပါ။
- ကိုယ့်အခန်းကို နေ့စဉ် သန့်ရှင်းစွာ ထိန်းသိမ်းရမည်။
မီးဖိုချောင်၊ အိမ်သာ၊ လျှော်စက် စသည့် အများသုံးနေရာများကိုလည်း
တစ်ထပ်တည်းနေသူများ အတူတကွ တာဝန်ယူ သန့်ရှင်းရမည်။
- ကျောင်းမှပေးထားသော သော့ကို ကိုယ်တိုင် ထိန်းသိမ်းရမည်။
ပျောက်လျှင် သို့မဟုတ် ပြောင်းလဲရန်လိုပါက
ကုန်ကျစရိတ်ကို ကိုယ်တိုင် ပေးရမည်။

အခန်း ၃ : အခန်းအသုံးပြုမှု

1. အခန်းခွဲဝေခြင်းကို ကျောင်းမှသာ ဆုံးဖြတ်သည်။
ကိုယ်တိုင် အခန်း မပြောင်းနိုင်။
2. အပြင်လူများ အိပ်မနေခွင့် မရှိ။
မိသားစုသာ ကြိုတင် ကျောင်းသို့ အကြောင်းကြားပြီးမှ အိပ်နိုင်သည်။
အပြင်တွင် အိပ်မည်ဆိုလည်း ကြိုတင် အကြောင်းကြားရမည်။
3. ဆန့်ကျင်လိင် အဆောင်သို့ ဝင်ခြင်းကို
တင်းကြပ်စွာ တားမြစ်ထားသည်။

အခန်း ၄ : အတူနေစည်းကမ်း

1. အသံကို နည်းနည်းသာ ထားရမည်။
ည ၉ နာရီနောက်ပိုင်း
ပြတင်းပေါက် ပိတ်ရမည်၊
အော်ဟစ်ခြင်း၊ တီဗီအသံမြင့်ခြင်း၊
လျှော်စက်အသုံးပြုခြင်း မပြုလုပ်ရ။
(အိမ်နီးချင်းများမှ ရဲသို့ တိုင်ကြားနိုင်သည်)
2. မီးလောင်လွယ်သော ပစ္စည်း၊ လက်နက် စသည့်
အန္တရာယ်ရှိသော ပစ္စည်း မယူလာရ။
3. နံရံရေးခြင်း၊ တရားမဝင် ကြော်ငြာ တားမြစ်။
4. လောင်းကစား၊ အကြမ်းဖက်မှု၊ ခိုးမှု
→ ပြင်းထန်စွာ အရေးယူမည်။
5. ခွင့်မပြုဘဲ ပစ္စည်းများကို
မရွေ့ရ၊ မပြောင်းလဲရ၊ မပျက်စီးစေရ။
6. အခြားသူများကို အနှောင့်အယှက် ဖြစ်စေသော လုပ်ရပ်များ
(အသံကျယ်၊ အနံ့ဆိုး၊ ရန်ဖြစ်) မလုပ်ရ။
7. စက်ဘီးကို သတ်မှတ်နေရာတွင်သာ ထားရ။
8. အဆောင်အတွင်း ဆေးလိပ် မသောက်ရ။
အပြင်တွင် သောက်ပါက
စီးကရက် အကျန်ကို သတ်မှတ်နေရာတွင်သာ ပစ်ရ။
အခန်းထဲသို့ အမှုန် (灰) ယူလာပါက
အခန်းတွင်း ဆေးလိပ်အဖြစ် တွက်မည်။
အဆောက်အဦပတ်လည်၊ အမိုး၊ အခြားသူပိုင်မြေတွင် မပစ်ရ။
9. အမှိုက်ကို
မီးရှို့နိုင်၊ မရှို့နိုင်၊ ပလတ်စတစ် စသဖြင့်
ခွဲခြားပြီး သတ်မှတ်နေရာ၊ အချိန်တွင်သာ ပစ်ရ။

10. လျှပ်စစ်၊ ရေ၊ ဂက်စ်ကြေးကို

အချိန်မီ ပေးရမည်။

11. အနီးအနား လူများနှင့်

နှုတ်ဆက်ရမည်။

ဒေသဆိုင်ရာ လှုပ်ရှားမှုများတွင် ပါဝင်ရန် ကြိုးစားရမည်။

အခန်း ၅ : အဆောင်ကြေး

လစဉ် အဆုံးတွင် ကျောင်းတွင် ပေးရမည်။

အခန်း ၆ : ပြစ်ဒဏ်

- စည်းကမ်းချိုးဖောက် → နားနေရ
- ၃ ကြိမ် → ကျောင်းထုတ် + အဆောင်ထုတ်
- ၁ ပတ်အတွင်း ထွက်ရ
- အောက်ပါများ → ချက်ချင်း ထုတ်ပယ်နိုင်
 - လောင်းကစား
 - အကြမ်းဖက်မှု
 - ခိုးမှု
 - ပစ္စည်းပျက်စီးမှု
 - အော်ဟစ်ခြင်း
 - အမှားသတင်း ဖြန့်ခြင်း
 - ညွှန်ကြားချက် မလိုက်နာခြင်း
 - အခကြေးငွေ မပေးခြင်း

အခန်း ၇ : အရေးပေါ်ထွက်ခွာမှု

- မိသားစု အရေးပေါ်
- ကျန်းမာရေး
- အရေးပေါ် နိုင်ငံပြန်ရမည့်အခြေအနေ

အခန်း ၈ : ထွက်ခွာချိန်

- ထွက်မည့်နေ့ကို ကြိုတင် ပြောရမည်
- လကုန်အထိ နေရမည်
- သော့ပြန်ပေးရမည်
- ပစ္စည်းများ ယူသွားရမည်
- အခန်း စစ်ဆေးမှု လုပ်ရမည်
- သန့်ရှင်းရေး
 - ကြမ်းပြင်
 - ပြတင်းပေါက်
 - ရေချိုးခန်း
 - ရေခဲသေတ္တာ
 - အမှိုက်

সায়ে জাপানিজ ল্যাঙ্গুয়েজ স্কুল ছাত্রাবাস নিয়মাবলী

(এপ্রিল ২০২৬ সেশন থেকে কার্যকর)

অধ্যায় ১: সাধারণ নিয়ম

এই নিয়মগুলো সায়ে জাপানিজ ল্যাঙ্গুয়েজ স্কুলের ছাত্রাবাসে

নিরাপদ, শান্ত এবং সুস্থ জীবন নিশ্চিত করার জন্য তৈরি করা হয়েছে।

সব বাসিন্দাকে এই নিয়মগুলো কঠোরভাবে মেনে চলতে হবে।

এই ভবনটি ছাত্রাবাস হিসেবে ভাড়া নেওয়া হয়েছে, তাই নিয়ম ভঙ্গ করলে গুরুতর সমস্যা হতে পারে।

অধ্যায় ২: সুবিধা ব্যবস্থাপনা

- ছাত্রাবাসে সরবরাহ করা সকল সুবিধা ও বৈদ্যুতিক যন্ত্রপাতি
(যেমন: টিভি, ফ্রিজ, এয়ার কন্ডিশনার ইত্যাদি) বাইরে নেওয়া যাবে না।
কোনো জিনিস ক্ষতিগ্রস্ত হলে, মেরামতের খরচ বাসিন্দাকেই বহন করতে হবে।
- অসাবধানতার কারণে দরজা, সিঁড়ি, দেয়াল, জানালা, পর্দা বা অন্যান্য অংশ ক্ষতিগ্রস্ত হলে,
প্রয়োজনীয় মেরামতের খরচ বাসিন্দার কাছ থেকে আদায় করা হবে।
- থাকার পর দেখা দেওয়া পাইপলাইন সমস্যা
(যেমন: টয়লেট, সিঙ্ক, পানি লিক হওয়া ইত্যাদি)
নিজ খরচে ঠিক করতে হবে।
- ব্যক্তিগত জিনিসপত্র (যেমন: টাকা, মোবাইল ফোন, ল্যাপটপ ইত্যাদি)
নিজ দায়িত্বে সংরক্ষণ করতে হবে।
হারিয়ে গেলে বা ক্ষতিগ্রস্ত হলে স্কুল কোনো দায় নেবে না।
- নিজের ঘর প্রতিদিন পরিষ্কার রাখতে হবে।
রান্নাঘর, টয়লেট, ওয়াশিং মেশিনের মতো
সকল শেয়ার করা স্থানও প্রতিটি তলার বাসিন্দারা পালানক্রমে পরিষ্কার ও ব্যবস্থাপনা করবে।
- স্কুল থেকে দেওয়া রুমের চাবি নিজের দায়িত্বে রাখতে হবে।
চাবি হারিয়ে গেলে বা পরিবর্তন করতে হলে
বাস্তব খরচ নিজেকেই বহন করতে হবে।

অধ্যায় ৩: রুম ব্যবহার

- রুম বরাদ্দের সম্পূর্ণ অধিকার সায়ে জাপানিজ ল্যাঙ্গুয়েজ স্কুলের।
বাসিন্দারা নিজের ইচ্ছায় রুম পরিবর্তন করতে পারবে না।
- বাইরের কোনো ব্যক্তির রাত যাপন কঠোরভাবে নিষিদ্ধ।

তবে নিকট আত্মীয়রা শুধুমাত্র
স্কুলকে আগেই জানালে থাকতে পারবে।
বাসিন্দারা যদি ডরমের বাইরে রাত কাটায়,
তাহলেও আগে স্কুলকে জানাতে হবে।

3. বিপরীত লিঙ্গের বাসিন্দাদের ছাত্রাবাসে প্রবেশ কঠোরভাবে নিষিদ্ধ।

অধ্যায় ৪: একসাথে থাকার নিয়ম

ছাত্রাবাসের শৃঙ্খলা বজায় রাখতে নিচের নিয়মগুলো অবশ্যই মানতে হবে।

শব্দ যতটা সম্ভব কম রাখতে হবে।

1. রাত ৯টার পর নিচের কাজগুলো করা কঠোরভাবে নিষিদ্ধ:

- জানালা খোলা (সবসময় বন্ধ রাখতে হবে)
- জোরে কথা বলা
- টিভি বা ভিডিও ইত্যাদি উচ্চ শব্দে চালানো
- ওয়াশিং মেশিন ব্যবহার করা

(জাপানে প্রতিবেশীরা প্রায়ই শব্দের কারণে পুলিশে অভিযোগ করে, তাই বিশেষ সতর্ক থাকুন।)

2. বিপজ্জনক জিনিস

(যেমন: দাহ্য পদার্থ, অস্ত্র ইত্যাদি) ছাত্রাবাসে আনা নিষিদ্ধ।

3. ছাত্রাবাসের ভেতরে দেয়ালে লেখা (গ্রাফিটি),

অবৈধ বিজ্ঞাপন লাগানো বা বিতরণ করা নিষিদ্ধ।

4. জুয়া, সহিংসতা, চুরি এবং অন্যান্য অপরাধমূলক কাজ

গুরুতর অপরাধ হিসেবে গণ্য হবে এবং কঠোর শাস্তি দেওয়া হবে।

5. অনুমতি ছাড়া ছাত্রাবাসের কোনো জিনিস সরানো, পরিবর্তন করা বা ক্ষতি করা যাবে না।

6. অন্য বাসিন্দাদের অসুবিধা হয় এমন কোনো আচরণ

(যেমন: উচ্চ শব্দ, দুর্গন্ধ, ঝগড়া ইত্যাদি) সম্পূর্ণ নিষিদ্ধ।

7. সাইকেল শুধুমাত্র নির্ধারিত স্থানে রাখতে হবে।

8. ছাত্রাবাসের ভেতরে ধূমপান সম্পূর্ণ নিষিদ্ধ।

বাইরে ধূমপান করলে সিগারেটের বাট

শুধুমাত্র নির্ধারিত স্থানে ফেলতে হবে।

ঘরের ভেতরে ছাই নিয়ে এলে সেটিকেও ইনডোর ধূমপান হিসেবে ধরা হবে।

ভবনের চারপাশে, ছাদে বা অন্যের জমিতে ফেলা কঠোরভাবে নিষিদ্ধ।

9. ময়লা অবশ্যই আলাদা করে

(যেমন: পোড়ানো যায়, পোড়ানো যায় না, প্লাস্টিক ইত্যাদি)

নির্ধারিত সময় ও স্থানে ফেলতে হবে।

10. বিদ্যুৎ, গ্যাস, পানি ইত্যাদির বিল

নির্ধারিত সময়ের মধ্যে অবশ্যই পরিশোধ করতে হবে।

11. স্থানীয় কমিউনিটির নিয়ম মেনে চলতে হবে।

প্রতিবেশীদের অভিবাদন জানাতে হবে,

এবং সম্ভব হলে স্থানীয় কার্যক্রমে অংশগ্রহণ করে

ভালো সম্পর্ক বজায় রাখতে হবে।

অধ্যায় ৫: ছাত্রাবাস ফি

1. ছাত্রাবাসের ফি প্রতি মাসের শেষে

স্কুল অফিসে অবশ্যই জমা দিতে হবে।

অধ্যায় ৬: শাস্তি

1. এই নিয়ম ভঙ্গ করলে বা স্কুলের নির্দেশ না মানলে

ছাত্রকে সাময়িক বরখাস্ত (suspension) করা হবে।

2. তিনবার সাসপেনশন হলে

স্কুল থেকে বহিষ্কার এবং ছাত্রাবাস থেকে জোরপূর্বক বের করে দেওয়া হবে।

3. জোরপূর্বক বের করে দেওয়ার ক্ষেত্রে

নোটিশ পাওয়ার ১ সপ্তাহের মধ্যে

ছাত্রাবাস ছেড়ে যেতে হবে।

এই ক্ষেত্রে কোনো ফি ফেরত দেওয়া হবে না।

4. নিচের কাজগুলো গুরুতর লঙ্ঘন হিসেবে গণ্য হবে এবং

বহিষ্কার ও জোরপূর্বক বের করে দেওয়ার কারণ হতে পারে:

- জুয়া
- সহিংসতা
- চুরি
- সম্পত্তির ক্ষতি
- সামাজিক নৈতিকতা ভঙ্গ
- উচ্চ শব্দে হট্টগোল করা
- মিথ্যা গুজব ছড়ানো
- ছাত্রাবাসের নির্দেশ অমান্য করা
- ভাড়া বা ফি সময়মতো না দেওয়া

অধ্যায় ৭: অনিবার্য কারণে মাঝপথে ছাত্রাবাস ত্যাগ

1. শুধুমাত্র নিচের ক্ষেত্রে মাঝপথে ছাত্রাবাস ত্যাগের অনুমতি দেওয়া হবে:

- নিকট আত্মীয়ের মৃত্যু বা গুরুতর অবস্থার কারণে জরুরি দেশে ফেরা

- স্বাস্থ্য সমস্যার কারণে দেশে ফেরা
- অন্যান্য জরুরি কারণে দ্রুত দেশে ফিরতে বাধ্য হওয়া

অধ্যায় ৮: স্নাতক বা চুক্তি শেষে ছাত্রাবাস ত্যাগ

1. ছাত্রাবাস ছাড়ার তারিখ অবশ্যই স্কুলকে জানাতে হবে।
চুক্তির শেষ মাসের শেষ দিন পর্যন্ত রুম খালি করতে হবে।
2. ছাত্রাবাস ছাড়ার সময়:
 - চাবি ফেরত দিতে হবে
 - সব ব্যক্তিগত জিনিস সরিয়ে নিতে হবে
 - ইউটিলিটি বিল সম্পূর্ণ পরিশোধ করতে হবে
 - স্টাফের সাথে রুম পরিদর্শন করাতে হবে
3. ছাত্রাবাস ছাড়ার সময় আবশ্যিক পরিষ্কার:
 - মেঝে ও জানালার ফ্রেম পরিষ্কার করা
 - বাথটাব, টয়লেট, সিঙ্ক পরিষ্কার করা এবং ছাঁচ (mold) অপসারণ
 - ফ্রিজের প্লাগ খুলে ফ্রিজারের বরফ সরিয়ে পরিষ্কার করা
 - বিছানার জিনিসপত্র এবং সব ময়লা ফেলে দেওয়া